

日本遺伝子研究所 染色体安全性試験ご案内

日本遺伝子研究所では各種細胞の染色体解析を行っています。

下記項目に従ってご提出時の条件の確認をお願いいたします。

染色体解析項目

- 1) iPS 細胞染色体安全性試験
- 2) ES 細胞染色体安全性試験
- 3) 間葉系細胞 染色体安全性試験
- 4) その他の培養細胞の染色体解析

提出条件

- 1) iPS 細胞については由来とフィーダーセルの種類を御記入ください。

T-25 ボトル2本提出して下さい。

コロニー数は20コロニー以上 1コロニー300細胞以上の状態であれば理想的です。

- 2) ヒト以外のES細胞については、iPS細胞と同様にお願い致します。

※ヒトES細胞については提出機関で標本作製を作成頂いております。

※標本作製条件等はお問合わせ頂いた上で御相談させて戴きます。

- 3) 間葉系細胞) 染色体解析

①付着系細胞の場合は底面積比で30%以上の状態でご提出下さい。

②遊離系細胞の場合 $1 \times 10^6 \sim 3 \times 10^6$ cell の状態で提出下さい。

培養に使用しているMediumの組成をお知らせ下さい。

※細胞に特定の添加物(サイトカイン等)を加えての培養が必要な場合はご使用の試薬の添付をお願いします。

以上を依頼書に細胞名をご記入願います。

梱包状態

ボトルの口元まで培養に使用している **Medium** で満たし、**Medium** が流出しない様しっかりと締めて下さい。

保存、輸送は室温とし、保冷剤を添付頂く際は直接ふれない様梱包して下さい

(時期により調整が必要な場合があります。真夏日、厳冬日)

※冬季輸送時の注意

冬季(12月～3月)期間は外気温が0度以下になり、輸送中に庫内の温度が低い為に、輸送箱が低温状態となり細胞にダメージを受ける可能性があります。低温ダメージを受けた場合コロニーの剥離が起こり、増殖の速度も遅くなります。

梱包方法

段ボール箱を外箱にし、内箱を発砲スチロール箱の二重梱包をお願いします。

保冷剤は入れずに培養ボトルを緩衝材で包み断熱効果を上げます。

理想は恒温剤 25度～35度範囲のものを同梱して頂ければ非常に安定します。

※この方法で細胞の剥がれは見られませんでした。

(ゲル保冷剤を保温して頂く方法や、カイロの同胞という方法も御座います。)

分裂細胞回収

細胞により短期または継代培養し中期分裂細胞を回収します。

付着系の場合 **passage** に注意が必要な場合はお知らせ下さい。又、

特殊な添加物を要する場合は事前にお知らせ下さい。